

事例
⑦オリジナルの食品機械の開発において
秘密保持契約が重要

株式会社きのとや

商品生産の基本は手作り

(株)きのとやでは様々な洋菓子を生産しており、酪農チーズプリンをはじめとする大ヒット商品が多数存在しています。

洋菓子市場は激戦であるため、同社でも新商品導入のサイクルは速く、毎年多数の新商品の開発を行っていますが、最初から機械を使用した大量生産を行うことはほとんどなく、新商品開発後の売れ行きを見ながら段階的な機械導入を行うのが基本方針となっています。

同社は商品の生産工程において多数の機械を導入していますが、商品づくりのコアとなる部分においては、手作りの要素を残しながら独自性を出しており、生産はあくまでも手作りを基本としているのが大きな特徴です。

小さな仕事から次の大きな仕事につながった道内機械メーカー

同社で導入している機械の中でも、自社のオリジナル機械においては道内機械メーカーのものが多数含まれています。

洋菓子の業界では、規格化された機械を組み合わせることで独自のラインを作ることもありますが、商品や生産工程等の特徴などから、自社のオリジナル機械の開発を必要とすることが多くなっています。

オリジナル機械は規格化された機械と比べてメンテナンスの頻度が高くなる傾向があり、北海道の機械メーカーへの期待が大きい部分でもあります。

同社ではこうしたことを背景に、酪農チーズプリンの生産ラインを構成する充填機械やラベリング機械などを道内機械メーカーから導入しました。この道内機械メーカーとの取引のきっかけは、オープン製の鉄板を回収するためのローラー開発という小さな仕事でしたが、丁寧な対応と技術を評価し、充填機やラベリング機械の仕事をお願いしました。

また、同社で道内メーカーの機械を積極的に導入する背景として、自社の生産性を向上させ道内外に商品を効果的に展開していくためには、自社のニーズに対応できる機械メーカーを道内で増やしていく必要がある、という会社の方針があります。

企業概要

【所在地】 札幌市東区東苗穂5条3丁目7-36

【資本金】 3,000万円

【従業員数】 300名(準社員、パート、アルバイト含む 平成26年12月現在)

【業種】 菓子製造・小売業

【主要製品】 生菓子、焼菓子、バームクーヘン、プリンなど

清掃のしやすさや省エネに対応した機械開発を道内メーカーに期待

同社では環境整備にも力を入れており、清掃のしやすさ(個々の部品の取り外しやすさ、汚れにくい構造となっていることなど)は機械選びの上で重要なポイントとなっています。

近年エネルギーコストも増大し、負担感も増していることから、省エネタイプの機械への関心が高まっています。道外の大手機械メーカーはライン全体を見た適正な機械導入の提案を行うことができますが、道内メーカーにおいても特定部分の機械開発だけではなく、できるだけ全体のラインを見渡しつつ、省エネタイプの機械の開発を期待しています。

道内の食品メーカーは道内の原材料を使用しているところも多く、生産者との距離も近いことから強みが発揮できるものと同社では考えています。また、包装・充填など生産ラインの後工程の部分においても、個々の機械と機械をつなぐ部分で道内メーカーが参入できる余地が大きいと捉えています。

自社専用機械の開発においては必ず秘密保持契約を締結

同社では自社向けに規格化された機械をカスタマイズして導入したり、自社向けのオリジナル機械を開発してもらう際、生産における自社のノウハウが機械メーカー側から他社に伝わってしまうことを恐れ、必ず機械メーカーとの間で秘密保持契約を締結しています。

機械メーカーとの信頼関係に依存し、秘密保持契約を締結しない企業も業界にはありますが、機械メーカーと同社の双方にとっても、今の時代はどこから情報が漏れるかわからないので、秘密保持契約による対策をとっています。

また、同社では社員に対してもレシピや工程表などを持ち出し厳禁としており、商品生産に関するデータは勝手に閲覧できないよう、担当者がパスワードを設定しコンピューター管理するなど情報管理を徹底しています。

道内食品メーカーアンケート調査結果より

アンケートに回答のあった道内食品メーカーのうち、「秘密保持契約等を締結して具体的な商談を行っている」という回答は8%とわずかとなっています。

このわずかな企業の中で、(株)きのとやでは、機械導入時に必ず秘密保持契約を締結しています。機械メーカーと食品メーカーが機械を開発する際、双方が重要な企業情報に触れることもあり、後々のトラブルを未然に防ぐためにも秘密保持契約を締結しておくことが求められます。

【機械購入時の秘密保持契約締結について】

